

3

Once upon a time, in a small pond in the woods, there was a <sup>\*</sup>Kappa living there.

From time to time, this Kappa came down to the nearby village to make a mess in fields and rice paddies, being a great nuisance to the villagers.

One day, a Buddhist priest from the village paid a visit to the Kappa's pond.





5

"Hey, Kappa. Why do you always do bad things?"

And from inside the pond, the Kappa showed his face.

"Actually, I want to get along with humans, but no human keeps me company. So, in frustration, I end up making trouble for them."

"Oh, I see. ...If that's so, you should stop doing bad things and do something helpful instead. That way, the villagers might understand how you've been feeling."

"I see! I will do that!"

The Kappa promised the priest that he will do helpful things.





むかし むかし、とある もりの なかの  
ちいさな いけに、  
いっぴきの かつぱが すんでいました。

この かつぱは、  
ときおり きんじょの むらに おりては、  
たんぼや はたけの さくもつを あらすので、  
むらびとたちは とても こまっていました。

あるひ、むらの おぼうさんが、  
この かつぱのすむ いけに やってきました。





「おい かつばや。どうして おまえは、  
そんなに わるさばかり するのかね？」

すると いけの なかから、  
かつばが かおを だしました。

「じつは おいら、にんげんと  
なかよく なりたいんだ。でも にんげんたちは、  
だれも おいらの あいてを してくれない。  
それで はらがたって、  
ときどき いたずらを してしまうんだよ」  
「そうだったのか・・・それなら もう わるさを  
やめて、なにか ひとの ためになるようなことを  
しなさい。そうすれば、むらびとも おまえの  
きもちを わかってくれるかも しれないよ」  
「わかった、そうするよ！」

かつばは おぼうさんと、  
そう やくそくを しました。

